



グリーンポトスニュース

号：2007年6月

久々のポトスニュースです。これからも不定期ですが、発行しますので、よろしくお願い致します。今回の話題は『子供の風邪』です。

子供の風邪

冬に流行するインフルエンザは、肺炎や脳症を起こす、最も恐ろしい病気です。予防接種により、予防可能ですので、毎年秋には接種しましょう。

溶連菌感染症は、溶血性レンサ球菌により発症します。高熱、のどの痛みなどをひきおこします。扁桃、咽頭の膿を伴った炎症を起こすこともあります。菌の持つ毒素により、猩紅熱になることもあります。また、免疫反応で、腎炎やリウマチ熱を引き起こします。これは、抗生剤の服用で、予防できますので、症状が落ち着いても服用することが大切です。

咽頭結膜熱は、主として7~8月頃に流行し、患者の年齢は5歳以下が6割程度を占めています。症状は、発熱と、咽頭炎による咽頭痛、眼の結膜炎などです。これは、3~5日間程度続きます。感染経路は、ウイルスによって汚染されたプールの水を介した結膜への直接の侵入や、タオルを介した感染、それに、咳・くしゃみなどによる飛沫、接触感染によるものです。

ヘルパンギーナは、1~4歳の乳幼児がかかります。発熱とかぜ様の全身症状を伴い、咽頭に赤いリングを持つ小さな水疱があらわれ、それが破れて浅い潰瘍をつくりますが、解熱とともに治ります。糞便から口を介してうつりますから、保育園などで流行します。

手足口病は、小児(半数は2歳以下)に発熱とともに、口の中・手のひら・足の裏に水疱があらわれます。まれに、髄膜炎などを併発することがありますが、基本的には治りやすい病気です。治ってからも、1ヶ月近くは糞便中にウイルスが出ています。

治療法はそれぞれの病気で、違います。熱が出たら、かめざわクリニックに、できるだけ早く受診してください。早めに治療していけば、早く治ります。

